



JSQC ニュース

No.228

発行 社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話:03(5378)1506 FAX:03(5378)1507

ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-シンポジウム「信頼性とシンポジウム」
- 2-TQM...今、世界では
- 3-私の提言 「性善説」と「性弱説」
- 3-ルポタージュ 第265回事業所見学会 / 第268回事業所見学会
- 4-15th Asia Quality Symposium 2001 / 行案内 / 事務局からのお知らせ

シンポジウム「信頼性とシステム安全学」

電気通信大学 山本 渉

2001年3月3日に本学会の複合技術領域における人間行動研究会が共催した標記のシンポジウムが開催された。発表だけでなく参加者との間で活発な討議がなされ、こういうテーマへの関心の高さ、および危機感が伺えた。

シンポジウム第5回「信頼性とシステム安全学」が、2001年3月3日に電気通信大学にて開催された。

昨今、原子力発電所、医療現場、航空機運航を始めとして、ヒューマンエラーを引金とする事故が目立ってきている。昨年の春に、当学会の主催で緊急シンポジウムが開催されたが、学界・産業界ともヒューマンエラーに関する関心が高まって来ている。このシンポジウムの前日にも四病院団体協議会の主催で、医療安全の確保をめざした医療と組織管理の質の向上について議論をするシンポジウムが開催されている。

本シンポジウムは、電気通信大学大学院情報システム学研究所の田中健次研究室と鈴木和幸研究室が毎年主催しているシンポジウム「ヒューマンマシンの安全性と信頼性」を、本年度は当学会の平成12～13年度の公募研究会「複合技術領域における人間行動研究会」との共催で、より幅広い領

域からの発表を募って開催されたものである。

また、公募研究会「複合技術領域における人間行動研究会」は、人間行動に関する研究についての発表・議論を通じた、未然防止のための方法論の研究・体系化をねらいとして設立され、現在まで一ヶ月に一回の頻度で会合を開いて、人間行動に関する研究についての発表・議論を行っている。

発表内容は、理論研究・事例を含む適用研究など幅広く、自動化と安全(4件)、医療の安全(2件)、リスクマネジメントと未然防止(6件)、ヒューマンファクターと安全文化(5件)の4つの観点から合計17件の発表があった。共催する研究会のメンバーの発表もこれらに含まれている。

当日は、大学関係・産業界・医学界など幅広く、約100名の参加があり、



関心の高さが伺えた。各発表とも、時間を大きくオーバーして発表者とフロアとの活発な質疑と意見交換がなされ、特に学界の発表者の研究に対して、現場を良く知る産業界の参加者からの有益な提言や質問と、それに引き続く議論が多く交わされ、発表者・参加者の双方にとって有益なシンポジウムであったという印象を受けた。

多くの活発な討議の中で、最後にフロアから黒田先生(日本ヒューマンファクター研究所)の「これまで安全学は事例を検討して問題点を指摘するレトロスペクティブな研究が中心であったが、今後は事故を防止できるよう、プロスペクティブな研究をしていかなければならない」という

お言葉がとても印象に残った。

今後もこのような、関心が高まりつつ重要度が認識された問題に関する議論の場を積極的に設けていくよう、学会に期待したい。



TQM...今、世界では

MIT 客員教授 司馬 正次

「チーズはどこへ消えた?」の爆発的な売れ行き、小泉新内閣への高い期待、いずれも「変革」の質やプロセスに社会の関心が集っていることを示している。

私の周囲にいる米国の経営者の関心も同様である。変革実現のため、組織がかかえる「イノベータズ・ディレマ」をいかに克服するか?そのプロセスは?もし自己の組織内のイノベーションの速度が遅いなら、いかに組織外から新しい血を入れるか?プレ

ークスルーが生じたら、いかに速やかにそれを製造プロセス化するか?未来のお客を組みこんだ製品化のプロセスは?などなどである。

しかし、ブレークスルーは常に辺境で生じることも事実である。ということはいま世の中で関心が高いトピックや手法は、未来の経営の質を真にブレークスルーするものでないのかもしれない。

変革へのリーダーシップの質を強く問われる“時代の風”を十分受け



とめながら、現在のポピュラーなトピックにとらわれず自分なり、自社なりのユニークさをとことんつきつめる時に、始めて次の時代を拓くことができるのであろう。

私の提言

「性善説」と「性弱説」

豊田紡織株式会社 代表取締役会長 太田 和宏



管理の方式には「性善説的管理」(方式1)と「性悪説的管理」(方式2)とがあります。方式1は人の性は善なりを基本とし、

人間は正義を愛し、向上心があり...不正を憎み、嘘も云わないことを前提とする方式で、この考えに立てば、管理の手間も少なく、そのシステムも簡便で済みます。

一方、方式2では人の性を本来ずるく、怠惰で...とするのですから、きちんと細部まで管理の網の目を設定しておくことになり、複雑で莫大なシステムとその運用の手間は大変

なものになります。しかし何処まで細かくしても信用出来ない人間がシステムを動かすのですからやはり問題は残ります。

従って、管理は性善説的を基本とすべきで、それに拘わる人々が性善なる人に近づくように常に仕向けてゆくことがキーでしょう。

その為には

システムを運用する人を信用すること。

そのシステム(例;業務管理システム)を正しく機能させることの重要性を繰返し説くこと。

個々のルール(例;技術標準、出入金手続)について、それが決められた理由、守られなかった場合の不具合をきちんと理解させること。

そのルール(例;作業手順)をどうすれば守れるかをやれるまで指導し続けることが大切と思います。

そして

組織として前述 ~ をきちんとやることをルール化、更には、風土化してゆけば、かなりしっかりとした運営が出来ます。しかし一方人間は弱いものです。つい心のゆるみから安易に走り、ルール違反などをしがちです。この弱さをどう見つけ、トラブル発生を防ぐか、即ち「性弱説的管理」(方式3)が必要となります。方式3は方式2とは異なり、あくまで方式1に則りつつ人間の持つ弱さの出るのを見出し、防ごうと云うものです。従って個々の人の自主性を尊重しつつ「ゆるい」けれども肝心な所はきちんと締めようとするものです。

この方式3は日本ならこそ出来ると思います。ぜひ充分な組織体をつくり上げ再び世界に誇れる日本の品質体質にしてゆきたいものです。

第265回 事業所見学会 ルポ

新日本製鐵(株) 名古屋製鐵所

第265回事業所見学会が平成13年2月23日(金)に愛知県東海市の新日本製鐵(株)名古屋製鐵所にて開催された。新日鐵名古屋製鐵所は、中部圏唯一の鉄鋼一貫の製鐵所であり、近隣に自動車産業をはじめとする大型需要があり、供給商品は多様化している。

また、お客様ニーズへのきめ細かな対応に加えて、環境や社会への貢献にも多大な企業活動を展開している。具体的には、環境基本方針を掲げ地球環境保全、循環型社会構築、環境負荷低減対策に全社をあげて努力されている。その中で今回は、廃プラスチック再生資源化への取組みについて、VTR、施設見学、プレゼンテーションを通して熱心な活動の説明をいただいた。

2000年4月より施行された容器包装リサイクル法に基づき一般家庭から排出される容器包装プラスチックが自治体より分別回収され、同工場は2000年10月より再商品化の設備が稼動した。自治体から回収されたキューブ型の廃プラスチックは粗破碎、異物除去、脱塩化ビニルの前工程を経て、二次破碎した後、2cm角の減容成形品と姿を変える。これを石炭とブレンドし、コークス炉で高温・無酸素状態で乾留することにより、コークス、油化物、ガスに熱分解され、新たなプラスチック原料や燃料、還元剤として生まれ変わる。

リサイクル施設内は鉄工所の躍動的なイメージと異なり食品工場のようなクリーンな印象を抱かせた。ただし、夏場では家庭から分別回収された原料は多少の不純物は避けられないため、作業にあたっては別のご苦勞もあるという。

山口景生(魚国総本社)

第268回 事業所見学会 ルポ

アラコ(株) 本社 吉原工場

さる4月26日(木)に第268回事業所見学会が愛知県豊田市のアラコ(株)本社・吉原工場にて「アラコにおける品質造り込み活動」をテーマに52名の方々が参加して行われた。

アラコ(株)は、昭和22年に乗用車ボデー及び自動車部品を生産する荒川鋳金工業(株)として設立され、その後自動車用シートなどの内装品、そして現在では超小型電気自動車の開発・生産も行っている。生産された商品は、世界約150カ国に送り出されているが、全世界のお客様に安心と喜びを提供するための活動が行われている。また、地球環境を守る一人ひとりの取組みも重視され、平成11年には全工場ISO14001を認証取得された。

会社・工場概要の説明を受けた後の工場見学では、延べ100車型にも及ぶランドクルーザーのプレス・ボデー・組立工程を案内していただいた。プレス工程では、異物による凸凹不良を撲滅するためにFTAが活用されていた。ボデー工程では、品質不具合処置体系ルートの説明を受けたが、不良0のためには、トップダウンだけ

ではなくボトムアップが大変重要であるとお話が印象的であった。ここでは、「対話シート」という独自のシートを用い、基本の徹底を重視した活動が行われていた。また組立工程では、延べ100車型の混流生産の中、車両の流れる順に部品を並べる等、車型間工数差を小さくしたサイクリックな作業への取組みがなされていた。

工場見学後の質疑・応答では、品質向上活動とISOの関係や専技部門の仕事の質に関する討議が行われ、品質造り込みのための仕組み・マネジメント・ツールの望ましい姿の一端を見ることのできた、大変有意義な見学会であった。

小杉敬彦(トヨタ自動車(株))



イメージ写真

15th Asia Quality Symposium 2001 Seoul開催のお知らせ

期日：2001年11月9日(金)～10日(土)

開催場所：韓国・ソウル郊外

申込締切：2001年6月29日(金)

原稿締切：2001年9月3日(月)

同封申込書にご記入の上、

E-mailまたはFAXにて、

お申込下さい。

E-mail office@jsqc.org

<注意事項>

・発表、質疑応答は英語で行います。

・研究は未発表のものに限ります。

事務局からのお知らせ

「ナレッジ・マネジメントとQFDの関連に関する研究」頒布のお知らせ

この度、標題の成果が本学会の研究会成果としてまとめられましたので、希望の会員にコピー印刷の上、実費で頒布いたします。希望者は以下によりお申込み下さい(申込先と代金の送付先が異なりますのでご留意下さい)。

1. 申込方法：E-mailまたはFAXに資料名、部数、会員番号、氏名、所属、送付先住所、電話番号をご記入の上お申込み下さい。

申込先：日本品質管理学会事務局 FAX.03(5378)1507

2. 資料代：1冊(A4判200頁)
2,940円(郵送料、消費税込み) 申込みと同時に下記宛お振込み下さい。

振込み先：(株)テツドウアソシエイツ

〒150-0011 東京都渋谷区東3-20-10

電話.03(3498)6293 FAX.03(3797)3039

第一勧業銀行恵比寿支店 普通預金 1482855

資料は入金を確認の上郵送致します。

2001年会員名簿発行と変更届のお願い

3年毎に改訂している会員名簿を本年は8月末に発行します。是非E-mailアドレスをご登録下さい。「名簿変更届」を同封しますのでご確認のうえ、変更がある方は変更箇所を記入しFAXで事務局宛にご返送下さい。

ホームページURLと事務局

E-mailアドレスが変わります

URL <http://www.jsqc.org/>

E-mail:office@jsqc.org(全般)

apply@jsqc.org

(申込み&変更等の受付)

2001年3月の入会者紹介

2001年3月13日の理事会において、下記のとおり正会員15名、準会員1名、賛助会員3社4口の入会が承認された。

(正会員) 15名

茅野早苗(国際航業)
海老根敦子(統計研究会)
岩崎正俊(サンデン)
原佳津代(NTT-MEコンサルティング)
土屋 巖(豊田紡織)
早川公人(富士ゼロックス)
末崎和功(K-プラス)
竹内俊泰(エイ・エス・ティ)
浅井紀子(中京大学)
高橋 健(東芝映像機器)
柴田敏宏(アラコ)
福田勝哉(神戸商船大学)
塩見賢吾・安井英男(JUKI)
福山昌弘(関西日本電気)

(準会員) 1名

木村明博(明治大学)

(賛助会員) 3社 4口

エーベックス・インターナショナル
(部長代理 国府保周)
横河システムエンジニアリング
(代表取締役社長 山形忠光)
リーガルコーポレーション
(代表取締役 伊藤利雄)

正会員：2618名

準会員：99名

賛助会員：187名、212口

公共会員：21名

行 事 案 内

3学会共催講演会(中部)

第79回講演会(中部3学会共催)

日 時：2001年6月29日(金)

13:10～16:40 講演会

17:40～18:40 親睦会

会 場：産業技術記念館小ホール

テーマ：「21世紀をさぐる」

講演1 チュートリアル：

ファイナンス工学

澤水勝茂氏(南山大学)

講演2 TQMにおける

新しい問題解決への取組

新藤久和氏(山梨大学)

講演3 自動車部品のモジュール化戦略

～設計的問題解決法～

竹野忠弘氏(名古屋工業大学)

申込締切：2001年6月22日(金)

参加費：講演会 3000円(会員・非会員共に)

懇親会 5000円

定 員：100名

申込方法：参加申込書に必要事項をの上

ご記入お申込下さい。

第271回 中部支部第63回 事業所見学会

日 時：2001年7月6日(金) 14:00～16:30

見学先：重要文化財 専修寺 御影堂

テーマ：平成大修理の状況見学(仮)

定 員：50名

申込方法：会員No・氏名・勤務先・所属・

TEL・連絡先住所を明記の上、中部支部

事務局までお申込下さい。

折返し、参加要領をお送りします。

申込先：〒460-0008名古屋市中区栄2-6-1

白川ビル別館

(財)日本規格協会名古屋支部内

(社)日本品質管理学会中部支部

TEL .052-221-8318 FAX .052-203-4806

e-mail nagoya51@jsa.or.jp

参加費：会 員2500円準会員1500円

非会員3500円学生(一般)2000円

第67回 研究発表会(中部支部第19回)

日 時：2001年7月26日(木)

会 場：名古屋工業大学

参加申込締切：2001年7月17日(火)

参加費：会員4000円(締切後4500円)

非会員6000円(締切後6500円)

準会員2000円 学生(一般)3000円